

## 急性腎盂腎炎 地域連携パス

令和2年10月 運用を開始しました

平素より岩手県立胆沢病院泌尿器科へ患者さんの御紹介、また当科からの紹介患者について快くお引き受け頂き誠にありがとうございます。

令和2年10月より「急性腎盂腎炎地域連携パス」の運用を開始しています。

このパスの目的として次の2点をあげております。

- ① 急性腎盂腎炎の患者に対して急性期・回復期と切れ目のない医療を提供し、早期の社会復帰を目指す
- ② 胆江地域における急性腎盂腎炎治療の質の向上を目指す

急性腎盂腎炎は尿路の逆行性感染（膀胱から腎盂・腎実質内）により引き起こされる有熱性尿路感染症であり、血流感染を合併しやすい特徴があります。尿路閉塞のない単純性腎盂腎炎と、尿路閉塞をしやすい状態（前立腺肥大症などによる排尿障害や尿管結石など）や、糖尿病・ステロイド内服など全身性易感染状態がある複雑性腎盂腎炎に分類します。高齢者は明らかな症状がないまま病状が悪化し、当院来院時に敗血症性ショックを呈していることもあり注意が必要です。当科では症状および各種検査の結果から単純性/複雑性の分類を行い、抗菌薬治療を開始します。上記のような尿路閉塞を認める場合にはFoley留置や尿管ステント留置といったドレナージ治療を、結石がある場合には結石の手術を併行して行います。単純性は1週間、複雑性は2週間以上入院治療を必要とします。

急性期治療中にリハビリテーションを開始しますが、経過中にADLが低下しスムーズに自宅に退院できない方がいらっしゃいます（もともとADLが良くない方も含む）。今回この

パスでは、当科での急性期治療が終了した後に自宅へ帰るまでリハビリテーションを必要とする患者さんを地域の回復期医療機関の皆様をお願いしたいと考えております。転院時には抗菌薬治療等は終了していることが前提であり、転院後にそれらの治療をお願いすることはありません。

また急性腎盂腎炎が疑われる患者さんがいましたら、急性期治療は当科で承りますので御連絡頂ければ幸いです。今後とも色々とお世話になるとは思いますが御理解および御協力を何卒宜しくお願い致します。

人工透析科長兼泌尿器科医長 忠地 一輝



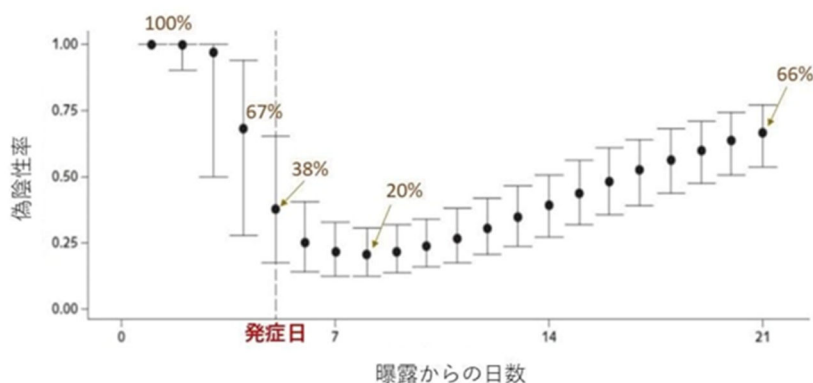
# 新型コロナウイルス感染症と PCR検査の時間

副院長兼感染管理室長 下田 次郎

新型コロナ感染症がパンデミックとなってもうすぐ1年になろうとしています。未だ収束には程遠い状況です。その症状は非特異的で診断も容易ではなく、現場では苦肉の総合的判断を求められます。昨年12月には粟石町の病院で大規模な院内感染クラスターが発生して100人を超える感染者が確認され、他病院からの応援職員にまで感染が相次ぐなど県民に衝撃を与えました。年末には収まる気配を見せましたが、年が明けてもなお散発的に陽性者が出ています。

私たち医療従事者は、季節性インフルエンザの発症直後には検査をしても陽性率が低いことを知っていますが、新型コロナではどうなのでしょう？ 前述のクラスターでは、3回目や4回目のPCR検査で検出された例がみられ、最近では5回目、6回目のPCRで初めて検出された方もおり、県の担当者も頭を抱えることとなってしまいました。PCRの感度については、当初より色々な数値が飛び交っていましたが、下のグラフは曝露からの時間と偽陰性率を示すものです。

これによると、熱や風邪症状など症状がでて2～3日後であれば、感度8割を期待できますが、たとえ感染していても曝露（感染者との接触）から2～3日まではPCR検査を行ってもほとんど検出されないことがわかります。「PCR陰性」は「感染していない」という証明にはならないことを改めて認識し、こうした時間の経過も考慮して、疑いの強い例では適切な時期に再検査を行う必要があります。



Ann Intern Med. 2020 Aug 18;173(4):262-267. doi: 10.7326/M20-1495. Epub 2020 May 13.

図. 新型コロナウイルス曝露からの日数と鼻咽頭PCR検査の偽陰性率

# ...新任医師紹介...

令和3年1月1日付



でがわ かずき

出川 和希 外科医師（専攻医）

趣味 野球観戦、釣り

ひとこと 3ヶ月と短い期間ではありますが、地域の医療に貢献できるように頑張りたいと思います。



## 奥州市が導入している医療・介護関係者の情報共有支援ツール

### メディカルケアステーション（MCS）を利用した 胆江地域の地域医療連携室の情報共有について

昨年度、胆江地域の地域医療連携部門を有する8病院（奥州、おとめがわ、総合水沢、江刺、まごころ、美希、美山、胆沢）で情報共有等を目的に「胆江医療圏地域医療連携室実務者連絡会」を立ち上げました。令和元年度は2回連絡会を開催し情報交換等を行いました。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催できず、また、例年実施している医療機関訪問もできず情報共有をどのように行うかが問題となっていました。

面会制限や診療制限等の重要な情報を各病院で手間をかけずできる限り早く共有するため、医療・介護関係者の情報共有支援ツールとして奥州市が導入しているメディカルケアステーション（MCS）を利用し情報共有することとしました。MCSはLINEのようにメッセージが時系列で表示されるもので、地域医療連携室グループを使用し各病院の情報を投稿してもらい、それを一覧表にまとめ8病院で共有しています。これにより、各病院の外来の診療制限や入院面会制限、支援カンファレンスの状況等を把握することができました。

今回、初めて本格的にMCSを使用してみて、操作も簡単で様々な情報共有に役立つツールであると感じています。今後も情報共有に努め各病院との連携を深めていきたいと思っています。

※ MCSについての詳細は奥州市地域医療介護推進室にお問い合わせ願います。



(MCS投稿イメージ)



連携トピックス

# がん情報をもっと身近に

～ がん情報コーナー設置に向けた図書館との連携 ～



インタビュー  
胆沢病院MSW 川崎

奥州市立水沢図書館  
館長補佐兼司書  
佐々木 嘉則さん

近年、関係機関との連携のひとつとして「図書館と医療機関との連携」が各地で行なわれるようになってきました。図書館は、小さなお子さんからご高齢の方まで幅広い年齢層の方が利用する場所です。より多くの方にがん情報をお届けするため、当院では奥州市立水沢図書館へがん情報コーナー設置に向け準備を行っています。

そこで今回は、奥州市立水沢図書館 館長補佐兼司書の佐々木 嘉則さんにインタビューをさせていただきました。

**胆沢病院** 近年、さまざまな図書館で“学校”や“行政”、“地元企業”などといった他機関と連携したイベント等行われているようですが、図書館における他機関との連携の現状や傾向について伺わせてください。

**佐々木さん** 岩手県内の図書館では、公共図書館や大学の図書館などが連絡協議会を組織しており、連携し協力し合っております。具体的には、災害が発生した場合の相互応援体制がありますが、平常時には、お互いの図書館運営についての情報交換をしたり、連携したイベントを行ったりしております。昨年9月21日の国際アルツハイマーデーに合わせて、その前後の期間に「こころが軽くなる～認知症との付き合い方」という統一したテーマで県内の図書館がそれぞれ関連本の展示貸出を行いました。その際には、岩手医科大学附属図書館が取りまとめを行い、関連資料などもご提供いただきました。また、市の担当課からも関連資料を取り寄せて展示して配布させていただいております。



**胆沢病院** 図書館について、書籍を借りたり学生等が勉強のために利用したりするイメージがありますが、奥州市立水沢図書館では、その他どのような取り組みを行っていらっしゃるのでしょうか？

**佐々木さん** 奥州市としては、子どもの読書活動の推進を図った取り組みを行っており、図書館もその一助を担っておりますが、水沢図書館としては、特に子育て支援に力を入れています。児童コーナーの入り口には、特設の子育て支援コーナーを設けておりまして、子育て中の親御さんが参考になるのではないかとと思われる本を多数用意しております。また、絵本コーナーでは、3歳児未満向けの絵本を集めて、手に取りやすいように工夫しております。コロナウィルス感染症による影響がなければ、0歳から2歳の乳幼児を対象とした絵本の読み聞かせ・保健師による講話と子育て相談・親子ふれあい遊びなども月1回行っております。

その他には、映画会も行っておりましたが、現在は中止しております。

**胆沢病院** 奥州市立水沢図書館で行っている特徴的な取り組みや地域性を活かした取り組みがあれば、ぜひ教えてください。

**佐々木さん** 水沢図書館には、ガラス張りの展示スペースがありますが、この中には、国立天文台水沢（旧水沢緯度観測所）の初代所長 木村 栄 が受章した文化勲章・章記・英国立天文学会ゴールドメダル賞記・学士院恩賜賞などを展示させていただいております。来館の際は、是非ご覧ください。

**胆沢病院** 関係機関との連携のひとつとして「図書館と医療機関（がん診療連携拠点病院等）の連携」についても各地で行われるようになってきていますが、どのように感じていらっしゃいますか？

**佐々木さん** 県内の図書館職員を対象にした研修が毎年行われておりますが、その研修で埼玉県立図書館の取組みが先進事例として紹介され、目を奪われた記憶があります。始めは反応が良くなかったようでしたが、徐々に認知されるようになり、今では図書館の中心的な常設コーナーになっているとのことでした。各部署との交渉などの事前の準備の苦労話を聞くとそこまでは難しいかなと感じました。それでも、今の時代に必要なことだとも痛感しましたので、できることから少しずつ取り組めたらと思っています。

**胆沢病院** 図書館は小さなお子さんからご高齢の方まで、老若男女問わず幅広い年齢層の方が利用する施設であると思います。その中で、がん情報などについて尋ねられることはありますか？

**佐々木さん** がんに関する本を置いてある棚はどのあたりですか？と尋ねられることは、たまにあります。高齢者の場合、がん以外でも病気に関する本は、よく借りられます。最近では、発達障害などの心の病気に関する本も年齢に関係なくよく借りられているようです。

**胆沢病院** 昨年度より、より多くの方にがんに関する情報をお届けするため、当院でも奥州市立水沢図書館へがん情報コーナー設置に向け準備をさせていただいております。当院で初めての試みでもありますが、どのようなことを期待されますか？

**佐々木さん** 自分の周りでもがんに関する話題をよく耳にするようになりました。身近な所でもがんでお悩みの方がいるなど実感させられます。実際がんになっていない方でも心配されている方は多くおられるようです。受診するまでもないと思うけれども、この症状ってどうなんだろうというような悩みです。そのような時に、気軽に図書館に来ていただけたらいいですね。そこに地域医療を担う胆沢病院さんからの情報があるとより心強いのではないのでしょうか。

## 奥州市立図書館について 令和2年3月末現在

施設数	5施設（水沢、江刺、前沢、胆沢、衣川）
年間延貸出冊数	613,437冊
年間延貸出人数	108,020人
年間入館者数	316,773人
1日あたりの利用者数	381人
1日あたりの貸出冊数	2,164冊
蔵書数(DVDやCD等含む)	573,520個

**胆沢病院** 最後に、地域の医療機関に向け、伝えたいことなどありましたらお願いします。

**佐々木さん** コロナウィルス感染症の拡大による医療現場の過酷な様子が度々テレビで放映されており、大変な状況だと思っています。全国どこの医療機関もご苦労されていることと思いますが、どうかご自愛ください。そのような状況ではありますが、地域との連携・協力が少しずつでも繋がりながら広がっていったらなと願っております。

## 地域医療福祉連携室からのお願い

胆沢病院へ患者さんをご紹介いただく際についてのお願いです。

事前にFAXで受診予約のお申し込みをいただいた際に、「ご紹介確認書」「来院のご案内（予約票）」を返信しております。令和3年1月より、新型コロナウイルス感染症対策のため「患者さんへお願い」も一緒にFAX返信しておりますので、患者さんへお渡しくделаさいますようお願いいたします。

患者さんを感染症から守るため、ご理解とご協力をお願いいたします。

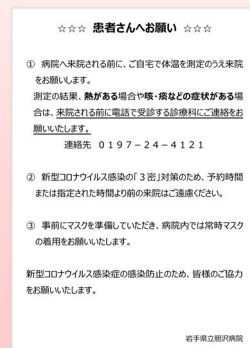


### ☆☆☆ 患者さんへお願い ☆☆☆

- ① 病院へ来院される前に、ご自宅で体温を測定の上来院をお願いします。測定の結果、熱がある場合や咳・痰などの症状がある場合は、来院される前に電話で受診する診療科にご連絡をお願いいたします。
- ② 新型コロナウイルス感染の「3密」対策のため、予約時間または指定された時間より前の来院はご遠慮ください。
- ③ 事前にマスクを準備していただき、病院内では常時マスクの着用をお願いいたします。



新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、皆様のご協力をお願いいたします。



## 岩手県立胆沢病院の基本理念

### <基本理念>

私たちは、地域の人々の健康と命を守るため、愛を持って地域医療に貢献します。

### <行動指針>

- 1) 患者さんと家族、私たちとの協働医療（専門性を結集した多職種による、患者参加型のチーム医療）
- 2) 患者さんの背景・価値観に配慮した医療
- 3) 患者さんが安心できる、良質で安全な医療
- 4) 地域の医療・福祉・行政との連携と機能分担
- 5) 次の世代を担う優れた医療人の育成

### <病院運営方針>

- 1) 救急医療を含む急性期医療  
胆江保健医療圏の基幹病院として、24時間対応の救急医療など、圏内の急性期医療、高度・専門医療を担います。
- 2) がん医療  
地域がん診療連携拠点病院として、手術・化学療法・放射線治療・緩和ケアなど専門的ながん医療の提供や、がん患者に対する相談支援・情報提供を行います。
- 3) 地域医療支援  
地域医療支援病院として、紹介・逆紹介の推進、地域医療機関との共同診療、地域の医療従事者・地域住民に対する研修・教育を行います。
- 4) 災害医療  
地域災害拠点病院として、災害時の傷病者の受入れや地域医療機関への支援、DMATチームの派遣を行います。
- 5) 臨床研修、スタッフ教育  
臨床研修指定病院・各種学会認定研修施設として、次の世代を担う医療従事者を育成するとともに、病院スタッフの研鑽に努めます。  
上記5項目の実践・充実のため、誇りを持てる職場づくりと健全な病院運営に努めます。



## 岩手県立胆沢病院 地域医療福祉連携室

〒023-0864

岩手県奥州市水沢字龍ヶ馬場61番地

TEL 0197-24-4121

FAX 0197-24-4180（紹介センター専用）

URL <http://www.isawa-hp.com/>